

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立星が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	198 人	社会	199 人	数学	199 人
	理科	199 人	英語	199 人		

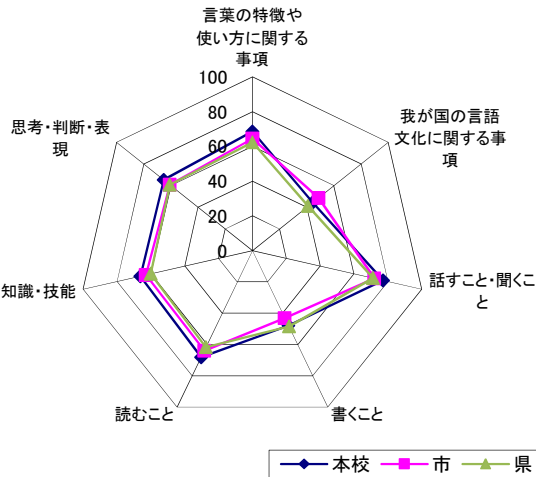
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.6	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	44.4	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	77.2	72.1	71.2
	書くこと	48.0	43.1	48.5
	読むこと	68.1	63.9	61.8
観点	知識・技能	66.2	62.9	60.1
	思考・判断・表現	65.3	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

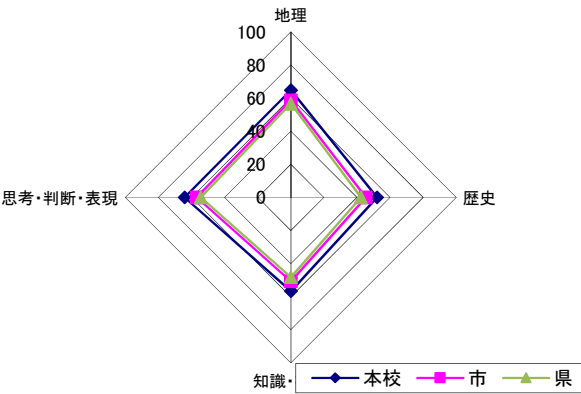
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○領域の正答率は、市の平均を4.1ポイント、県の平均を6.3ポイント上回っている。漢字の読みに関しては正答率が3問とも市・県の平均を上回っている。また、敬語・文節の関係・短歌の表現技法について問われる問題では、いずれも市・県の平均を上回っていた。 ●漢字の書き取りについては、正答率が3割未満の問題が一問あった。市・県の平均の正答率は上回っているが、この問題の無回答率は40.4%と、市・県の平均より多かった。	・漢字の読みや文法に関しては、これまでと同様に授業での問題演習などを通して知識を身につけさせ、さらに定着を図っていく。 ・漢字の書き取りについては小テストなどで生徒自身の現状を理解させ、漢字を丁寧に書くよう指導を重ねていく必要がある。 ・授業などで文章を記述する際に、既習の漢字を使うよう指導する。他教科でも同様にするよう共通理解を図る。 ・小学校の漢字の復習を、授業の最初に漢字のミニテストやクイズ形式で取り組む時間を設けるなどする。
我が国の言語文化に関する事項	○領域の正答率は、県の平均を3.3ポイントを上回っている。 ●領域の正答率は、市の平均を4.3ポイントを下回っている。 ●【「いはく」や「かやう」などの歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く】設問の正答率が、市の平均を下回った。	・歴史的仮名遣いについての知識の定着を図るために、古典分野の授業において既習事項の復習を丁寧に行う。 ・現代仮名遣いに直す際に、その単語自体の意味を調べ、語彙力の向上を図ることで理解を深めたい。
話すこと・聞くこと	○領域の正答率は、市の平均を5.1ポイント、県の平均を6.0ポイント上回っている。 ○【話し手の話し方や内容を説明した文として適するものを選ぶ】設問の正答率が市・県の平均を上回っている。 ●【条件に従い話し合いのまとめを書く】設問の正答率が30.3%と低い。	・多くの意見が出た際に、どのようにしてまとめて全員に伝えていくのか、表現方法を簡潔にできるよう発言の際に指導をしていく。 ・話し合いの要点をまとめ、自分の言葉で記述、発言する活動を、普段の授業でのグループワークで行い、要点の押さえ方、文脈の判断について指導をしていく。
書くこと	○領域の正答率は48.0%で、市の平均を4.9ポイント上回っている。【資料を読み、8行から10行の間で文章を書く】設問と、【第1段落に、【資料1】と【資料2】の調査結果から読み取れることを書く】設問においては、市や県の平均を上回っていた。 ●領域の正答率が県の平均を0.5ポイント下回っている。【第2段落に、第1段落に書いたことをふまえて、「言葉を使うときに気をつけたいこと」について、自分の考えと、その理由を書く】設問の正答率が27.8%と、県の平均を大きく下回った。	・自分の考えを書く際に、意見と根拠の違い、根拠の妥当性や説得力、文章全体の構成を意識して、段落ごとに文章を作る活動などを実施し、文章の書き方の指導をしていく。
読むこと	○領域の正答率は50.1%で、市の平均を4.2ポイント、県の平均を6.3ポイントと大きく上回っている。○【文章の内容について叙述を基に捉える問題】など、領域内のほぼ全ての設問において、市・県の平均を上回っている。 ●【文章の内容をふまえた募集ちらしの書き方として適するものを選ぶ】設問の正答率は54.0%で、市の平均を1.7ポイント下回っている。また、【登場人物の考えを説明した文の空欄に当てはまる言葉を書く】設問の正答率が58.1%と、他の設問の正答率と比べて低かった。	・授業やテストの解説の場面で、文章の内容を的確にとらえ、その内容や情報を基にして正しい記述を判断できるよう指導していく。 ・登場人物の心情を、台詞や行動描写、情景描写となる言葉に注目しながら推測させ、場面ごとの大きな心情や主旨を確認するよう指導する。 ・上記で確認した心情の変化等を踏まえて、登場人物の考えをまとめて記述する活動を行う。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	64.8	58.7	56.6
	歴史	52.1	45.4	42.4
観点	知識・技能	56.6	50.7	48.2
	思考・判断・表現	64.2	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

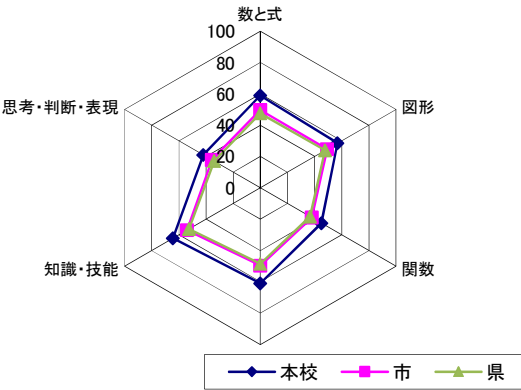
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○領域の正答率は64.8%で、市の平均を6.1ポイント、県の平均を8.2ポイント上回っている。 ○【日本の領域の端の島々についての問題】の正答率が68.3%と市の平均を9.3ポイント、県の平均を12.3ポイント上回っている。 ○【乾燥帯の気候とその地域の特徴についての問題】の正答率が77.9%で、市の平均を8.5ポイント、県の平均を9.5ポイント上回っている。 ○【アンゴラの主な輸出品の割合について問題】の正答率は68.3%で、市の平均を9.9ポイント、県の平均を12.3ポイント上回っている。 ○記述式全体の正答率が65.8%で、市の平均を9.3ポイント、県の平均を12.2ポイント上回っている。 ●【日付変更線と国の位置関係に関する問題】の正答率が39.27%と低く、時差についての知識が十分でない生徒が多い。 ●【東アジアの国々に関する統計資料を読み取る問題】の正答率が24.1%と低い。表の読み取りが不十分な生徒が多い。 ●記述式問題の無解答率が10～16%で、記述式についての課題が見られる。	・時差や割合を求める等、計算を含む問題演習を複数回取り入れていく。 ・統計資料等の表を読み取り、読みとった内容を基に考察できるよう指導していく。 ・語句を暗記するにとどまらず、その特徴について理解を深めさせる。 ・理解したこと、考察したことを言語や文章で表現できるよう、授業の中で自分の考えを表現する課題を積極的に取り入れていく。
歴史	○領域の正答率は52.1%で、市の平均より6.7ポイント、県の平均より9.7ポイント上回っている。 ○【古代の日本の対外関係についての問題】の正答率が47.4%と高くはないが、市の平均より15.2ポイント、県の平均より24.4ポイント上回っている。 ○【律令制下の農民についての問題】の正答率が55.8%で、市の平均より18.7ポイント、県の平均より23.0ポイント上回っている。複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察することが概ねできている。 ○【遣唐使が停止された理由についての問題】の正答率が73.4%で、資料をもとに考察することがよくできている。 ●記述式の正答率が高い一方で、無解答率も20～22%と高く、考察したことを表現する力をつけていく必要がある。 ●【中世に起こった戦いについての問題】の正答率が20.1%と低く、中世全体を通しての理解が不十分である。	・資料をよく分析し、読みとった内容を自分のことばで表現する活動を授業に積極的に取り入れていく。 ・歴史上の出来事を前後の出来事と関連付けて理解できるよう時代を通しての見通しを持たせる。 ・語句を暗記するにとどまらず、その特徴について理解を深めさせる。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	59.0	49.7	47.6
	図形	57.0	49.2	47.7
	関数	45.1	38.0	36.8
	データの活用	60.9	49.6	48.5
観点	知識・技能	64.4	54.0	52.5
	思考・判断・表現	42.1	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

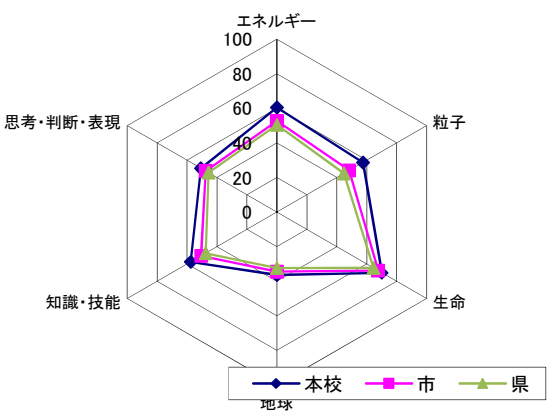
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域の正答率は59.0%で、市の平均より9.3ポイント、県の平均より11.4ポイント上回っている。 ●【前日の最低気温について、正しい計算をしている生徒を選ぶ】設問では、正答率が46.7%と市の平均より2.0ポイント低い。選択式の問題であり、無回答率は0.0ポイントであるが1番を選んだ生徒が31.2ポイントと市の平均より5.7ポイントも高い。	・分数に対して苦手意識を持つ生徒が多いので、等式の性質を確認しつつ、分数が出てきた場合はその都度約分などの確認を十分に行うなどして、フィードバックを図る。 ・正答率が高いが、四則や累乗、等式の立て方などが十分でない生徒もいるので、日頃から粘り強く取り組むよう指導する。 ・正負の数における基準を決めて増減を問う問題に難があったため、文章を読み取り場面をイメージする力を養っていききたい。
図形	○領域の正答率は57.0%で、市の平均より7.8ポイント、県の平均より9.3ポイント上回っている。特に【回転移動、平行移動したときに重なる図形を選ぶ】設問の正答率が非常に高かった。 ●【角の二等分線の性質を理解し、三角形における折り目を作図する】設問の正答率は51.8%で、市や県の平均よりは高いが、作図領域の正答率と比べるとやや物足りない正答率である。	・作図は、入試でも必ず問われている問題のため、確実に書けるよう、折を見て繰り返し指導していく。 ・図形や立体などにおける名称は、授業の中でその都度確認をしていく。 ・平面図形や空間図形の面積や体積の求め方にいささか不安があるため、適宜復習していくように指導する。
関数	○領域の正答率は45.1%で、市の平均より7.1ポイント、県の平均より8.3ポイント上回っている。 ●【比例のグラフの直線が途中で止まっている理由を、Yの変域を示して説明する】設問の正答率がわずか20.6%である。会話文からグラフを読み取り、そのグラフについて説明することができていない。記述式の問題に難がある。	・値を求める問題に関しては正答率がいいが、記述式の問題に対する無回答率が29.7%と高いので、自分の考えを表出させる授業を適宜取り入れ、考えを書く習慣をつけさせていく。 ・図形と関数の複合問題など、領域がまたがる問題に慣れていない節があるため、授業の中で積極的に取り入れていく。
データの活用	○領域の正答率は60.9%で、市の平均より11.3ポイント、県の平均より12.4ポイント上回っている。特に【度数分布表から、ある階級の相対度数を求める】設問の正答率は79.9%で、累積度数など代表値についての理解がある。 ●ヒストグラムから読み取った傾向を説明することでは、正答率は市や県の平均より高いが、無回答率が21.1%あり、記述式への抵抗感がぬぐえない。	・無回答率が市や県の平均よりかなり低いいため、データの活用に対する意欲が高いため、今後も継続した指導を行っていく。 ・記述に慣れるために、ヒストグラムなどから読み取った内容を記述する展開を多く取り入れ、考えを表出する時間を多くとる指導を行っていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	60.5	52.7	50.5
	粒子	57.5	48.3	44.9
	生命	70.1	67.6	64.4
	地球	36.3	34.4	32.3
観点	知識・技能	57.6	50.7	47.6
	思考・判断・表現	50.8	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

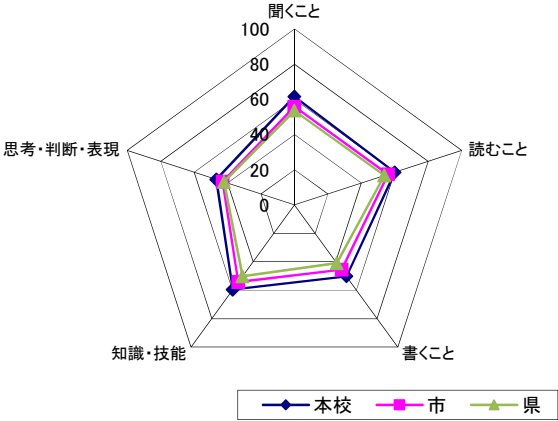
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の正答率は60.5%で、市の平均より7.8ポイント、県の平均より10.0ポイント高い。【実験の結果から凸レンズの焦点距離を求める問題】については、正答率が69.9%、市の平均より12.1ポイント、県の平均より12.4ポイント高く理解が深まっていることを示している。また、 ●【虚像の作図についての問題】では、正答率が38.2%で三角定規の使い方などの課題が残る。	・計算力が不足している生徒がいるため、小学校で学習する計算問題もフィードバックし、繰り返し演習を行う。 ・グラフの書き方は高校でも重用されるので基礎を固めていきたい。 ・身近な現象を、数値含め論理的に説明できるように、題材を工夫し、考察する力をつけさせる。
粒子	○領域の正答率は57.52%で、市の平均より9.2ポイント、県の平均より12.6ポイント上回っている。【状態変化の名称を答える問題】の正答率は88.4%で、市の平均より10.5ポイント、県の平均より14.1ポイント上回っている。 ●【食塩の水溶液のモデルの問題】の正答率は27.1%で、水溶液の性質についての理解が浅い。	・エネルギー分野と同様、計算問題ではその考え方を丁寧に指導し、繰り返し問題に取り組ませる。特に質量パーセント濃度の問題は根気強く指導を行ったり、問題を多く解く時間を確保したりする。
生命	○領域の正答率は70.1%で、市の平均より2.5ポイント、県の平均より5.7ポイント上回っている。【脊椎動物の分類の観点の問題】の正答率が87.9ポイントで、基本的な知識が十分身についている。 ●【両生類と爬虫類に関する問題】の正答率は53.8%で、市の平均より4.6ポイント、県の平均より1.0ポイント下回っている。	・節足動物のなかまが多岐にわたる生物が存在することを動画教材や資料から考察することで理解を深めさせる。また、両生類と爬虫類の区別を苦手とする生徒も多く、動画などを利用して理解を深めさせたい。
地球	●領域の正答率は36.3%で、全体的に正答率が低い。市の平均と1.9ポイント、県の平均と4.0ポイントの差で、ほぼ変わらない。各時代の標準化石、柱状図の読み方、火成岩の色の特徴など、地学全般にわたって苦手感、不得意感が目立つ。	・R6の2年生同様、他領域に比べて理解が不十分である。動画教材や実物の観察、実験などの活動を通して興味・関心をひきながら理解を深めていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.6	55.8	53.5
	読むこと	59.9	56.0	53.8
	書くこと	50.3	45.6	40.9
観点	知識・技能	59.6	54.3	50.2
	思考・判断・表現	46.7	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域の正答率は61.6%で、市の平均より5.8ポイント、県の平均より8.1ポイント上回っている。 ○【情報を正確に聞き取り、適切に応答する】設問すべてにおいて、正答率が市や県の平均を上回っている。 ●少し長い英文を聞いて話の概要を捉える問題や尋ねられたことに対して、自分の考えを簡潔に書く問題の正答率が2割～3割台と、非常に低い。	・目的をもたせてある程度まとまった英文を聞かせ、要点や概要を聞き取る力をつけていく。 ・教師やALTのsmall talkや生徒同士である題材について話す活動などの英語でのやり取りを継続して行い、聞く力を高めるとともに、たずねられたことに対して自分の考えを英語で答えることができるようにしていく。 ・デジタル教科書を活用して、自然な英語の音に慣れさせる。
読むこと	○領域の正答率は59.9%で、市の平均より3.9ポイント、県の平均を6.1ポイント上回っている。 ○【対話文の空欄に当てはまる語を選択する】設問の正答率が、市や県の平均を上回っている。 ●簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み、適切な語を書く問題の正答率が3割弱で、市や県の平均を上回っているが、低い。	・大まかな内容や要点がつかめたかどうか確認をするTFクイズやQ&A活動を継続して行っていく。また、代名詞が指しているものが何かを考えさせ、細かい部分での読み取りができていくかを確認していき、読む力を高めていく。 ・常活動などで、基本的な単語や基本文の定着を図り、正しく情報を読み取ることができるようにしていく。
書くこと	○領域の正答率は50.3%で、市の平均より4.7ポイント、県の平均を9.4ポイント上回っている。並べ替えの問題は、6～7割の正答率となっている。 ●読んだことについて、自分の考えを整理しまとまりのある文章を書く問題の正答率は11.6ポイントと低い。無解答率も2割と、英文を書くことに課題が見られる。	・簡単な語句や基本文の小テストを行い、定着を図り、語彙力や表現力を高めていく。 ・既習の語句や文法を繰り返し使う機会や書く機会を設けて、定着を図る。また、間違いやすい英文は、全体で共有し正確に書けるようにしていく。 ・基本的な情報を書く活動だけでなく、読んだことをもとに自分の考えや気持ちを書いたり、場面や状況を把握して適する英文を書いたりする活動を行っていく。

宇都宮市立星が丘中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○【家で、学校の授業の復習をしている】について肯定的回答をした生徒の割合は80.8%で、市の平均より10.4ポイント、県の平均より9.9ポイント高い。また、【家で、テストで間違えた問題について勉強している】について肯定的回答をした生徒の割合は73.3%で、市の平均より8.0ポイント、県の平均より10.7ポイント高い。知識の定着を図るために、家庭学習の習慣が身についた生徒がさらに増えるよう、授業等で呼びかけていきたい。

○【先生は学習のことにについてほめてくれる】について肯定的回答をした生徒の割合は92.5%で、市の平均より5.3ポイント、県の平均より8.5ポイント高い。全教職員で生徒を褒めて伸ばす指導に努めている成果と考えられる。

○【家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている】について肯定的回答をした生徒の割合は74.8%で、市の平均より15.2ポイント、県の平均より19.1ポイント高い。【勉強していて、おもしろい、楽しいとおもうことがある】について肯定的回答をした生徒の割合は82.3%で、市の平均より6.2ポイント、県の平均より9.0ポイント高く、学習に対する興味関心が高く、意欲的に学習をしている生徒が多い。

○【授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている】について肯定的回答をした生徒の割合は95.0%で、市の平均より4.3ポイント、県の平均より5.8ポイント高い。また、【友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である】について肯定的回答をした生徒の割合は54.0%と市の平均より8.8ポイント、県の平均より10.2ポイント高く、どの授業においても一人一人が発言する機会が多く設けられることで、自分の考えを発表することへの自信につながっていると考えられる。

●【家で、学校の宿題をしている】について肯定的回答をした生徒の割合は89.9%であり、市の平均より3.5ポイント、県の平均より1.4ポイント低い。また、【学校の宿題は、自分のためになっている】について肯定的回答をした生徒の割合は93.0%で、市や県の平均とほぼ同じである。【学校の宿題は、やりたくなる内容だ】について肯定的回答をした生徒の割合は40.4%で市や県の平均はやや上回っているものの、宿題に対する意欲が十分でない生徒が一定数いることが伺える。宿題の内容について量や内容の精選を図り、学びポケットなどを活用して生徒が取り掛かりやすい環境を作っていく。

●【授業を集中して受けている】について肯定的回答をした生徒の割合は88.4%で、市の平均より4.9ポイント、県の平均より3.0ポイント低い。また、【ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか】について「6時間より少ない」と回答した生徒の割合が9.1%と市と県の平均より2.9ポイント高い。授業に集中できない要因のひとつとして睡眠不足による集中力低下が考えられる。睡眠の大切さと規則正しい生活リズムの重要性について啓発に努めていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・多面的に考え、自らの考えを進んで表出する生徒の育成 ・本時のねらいを共有し、意欲を持って学ぶ生徒の育成	・学びポケットの活用ならびに各教室に据え置きたホワイトボードの活用を推進する。 ・各授業において【本時の目標】を提示し、そのねらいに即した授業の展開をする。	・上記の通り、発表や話し合い活動の機会は設けられており、【友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である】に対する肯定的回答が54.0%で市や県の平均を上回っている。 ・【授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている】に対する肯定的回答は98.0%で、市や県の平均とほぼ同じである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・【授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている】に対する肯定的回答は98.0%であるのに対し、【授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている】に対する肯定的回答が83.3%で、昨年度の2年生より8.8ポイント上がり、今年度の市や県の平均と比べても上回っているが、振り返り活動をさらに充実させたい。	・振り返る活動の充実	・宇都宮モデルの「はっきり・じっくり・すっきり」の中で、学ぶことの良さを実感できる「すっきり」を目指す授業の展開に努める。 ・各授業の最後にノートやワークシートにまとめさせたり発表させたりする活動を、今後も継続して行う。